



第 1367 回例会報告

平成26年5月29日(木)晴

会長挨拶

会長 平山隆勇

福岡と官兵衛

先週末、福岡で開催されている学会に参加してきました。福岡の印象は、とても便利で機能的な町であるということと、今年に限ってかもしれませんが、黒田官兵衛という字がたくさん目についたことでした。

福岡は東京の様に超過密ではなく、居心地の良さを保つ程度の賑わいと活気がありました。人口は増加中で、2013年には150万人を突破し、今後も増える見込みだそうです。人口増加の要因は、そこに住みたくなる魅力があるからで、人口減少に悩む私達にはうらやましい限りです。何といっても福岡の良いところは、空港から地下鉄二駅(5分間位)でJR博多駅に接続できることです。一方、博多駅、博多人形など、『博多』という名前が有名なので、福岡県博多市だと思ってしまう人もいるようですが、ほんとうは福岡市の博多区であるということも言うまでもありません。博多はホテルや食べ物屋が多いですが、区画整理は整然としています。もともと博多は平安時代後期から、大陸

との国際貿易都市として栄えたのですが、戦国の幾多の戦いで一旦は焼け野原となってしまい、それを秀吉により九州平定後に区画整理(太閤町割)が行われ復興したのです。

そして、毛利方に近い播磨国(兵庫県)で黒田官兵衛は織田方に味方し、羽柴秀吉の軍師となって活躍したわけですが、その後関ヶ原の合戦では長男長政とともに今度は徳川方につき、大手柄

挙げた功績により、徳川家康から筑前国(今の福岡)を与えられました。黒田官兵衛の文字がいたるところでみられるのは勿論NHKの大河ドラマの影響で、このチャンスを見逃す手は無いという人々の思惑であることは言うまでもありません。52万3千石の福岡藩初代藩主となったのは官兵衛の息子である長政の方で、官兵衛はそれよりずっと前に家督を長政に譲っており、自身を如水と称していました。官兵衛は博多を含めた大きな城下町作りを望んでいたそうですが、長政は博多の西側に福岡城を築き、その周辺を城下町とし、博多を商人街として残す選択をしました。この時博多を残さなかったら、今の様な繁栄した地方都市にはならなかったかもしれないと福岡城の城跡を歩きながら思いました。

官兵衛は大変慈悲深く、家臣を大切にし、それ

■出席報告

会員数	37名
出席対象	36名
出席者数	27名
出席率	73.0%
前回修正	86.1%

■ニコニコBOX

20名	27,000円
累計	1,11,000円
目標額	130万円
達成率	85.5%

■今週のことば

只今会員37名中21名 56.8%の方が例会皆勤中です。内5名はホーム100%です。あと例会は3回です。頑張ってください。
クラブ奉仕委員会

先週お話をいたしました、県知事との協定書の調印式は無事行われました。ありがとうございました。
全国で3番目の調印式とのことでした。

小林聖仁



が黒田武士と呼ばれる優れた軍団を生みだしました。一方人の心を察する力や先を見通す力を持っており、それにより秀吉から軍師としての力を認められていたものと思われます。また、生涯一人の妻である光(てる)を愛し、初代福岡藩主となる長男長政(幼名松寿丸)を育てたと聞くと、真面目で穏やか人間像が浮かんできますが、関ヶ原の合戦の間、遠く九州の地より天下を窺っていたという説もあり、実は秀吉が最も警戒していたため、石高を低く抑えていたとも言われています。やはり、人の心はそう簡単に計り知れるものではないということでしょう。以上福岡城址に行き、黒田家と現在の福岡市の繁栄について、歴史に詳しいタクシー運転手に聞いた話を交えてお話ししました。

第 1367 回例会

尾上会員・近江会員 会員卓話

広報委員会担当例会

本日は、諏訪湖ロータリークラブ広報委員会では一生懸命委員長を補佐していただいています、チャーターメンバーの尾上正弘会員と設立メンバーであります近江誠一会員の卓話をいただきました。

このように申しては、申し訳ないのですがとてもご年齢とは思えぬかくしゃくたる卓話に驚きました。惜しむらくは手持ちの時間が短かったことでした。近い将来、自由な話題でおひとり30分以上の卓話をぜひお願いしたいものです。



国際奉仕委員会 5月17日例会続きですが、(1)から再録させていただきます

2600地区2014-15年度 地区国際奉仕事業について

2600地区国際奉仕委員会
委員長 渡邊 芳紀

例年4月に開催される地区協議会ですが、地区内各クラブのそれぞれの委員長さんにそれぞれの委員会の任務等を再確認する意味合いを込めて、今年度から「地区研修・協議会」となりました。

I. 国際奉仕とは

さて国際社会奉仕活動の喜びは奉仕したさきで絶大な感謝を受けれることです。RI では次のように言っています。

WCS 活動の恩恵は、援助される側の人々だけではなく、活動に参加した私達ロータリアンも受けることを実感して下さい。

私達の活動によって助けられた人々の喜びを目の当たりにする時、私達奉仕を実践したロータリアンも大きな喜びを手に入れる事ができます。さらに国際理解や親睦を一層深めていく事ができるのです。

奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされるのが、真の奉仕です。

是非、みなさんご都合をつけて国際社会奉仕事業に参加してその喜びを実感してください。

さて、国際奉仕とはロータリーの目的「奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること」を基に「人道的な活動を広げ、世界理解と平和を推進する活動をする。」

そして

1. 世界社会奉仕活動
2. 国際レベルの教育及び文化活動
 - ①ロータリー友情交換
 - ②世界ネットワーク活動グループ
 - ③国際青少年交換
3. 特別月間と催し
4. 国際的な会合
5. 海外姉妹クラブとの国際交流 等々の活動を

明示しています。

1. の世界社会奉仕活動とは「国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うの」というものです。

世界社会奉仕活動の要件として

- ① プロジェクトが人道的奉仕活動であること
- ② 2 カ国以上のロータリアンが関与すること
- ③ プロジェクトはこのうちいずれか 1 カ国で実施されること

等があります。

【人道的支援】とは「人間性を重んじ、人間愛を実践し、併せて人類の福祉向上を目指す支援」で、具体的には

《食べることができる》

《病気がなおせる》

《学校に行ける》

という事ではないかと考えています。

2013-14 年度地区委員会で、地区内55クラブ国際奉仕委員会対象に、事業調査をいたしました。40クラブが回答してくれ、その調査結果を見ると、今までに、10クラブはアジア各国で支援をおこなってきていますが、30クラブが「世界社会奉仕活動(WCS)」や「国際レベルの教育普及と文化活動」というところで事業設定されていないことがわかります。またグローバル補助金へのエントリーもありません。

2014-15年度度国際ロータリー会長ゲイリー・ホアン氏は、テーマ“ロータリーに輝きを”の中で、RI 戦略計画の推進「人道的奉仕の重点化と増加」を呼びかけています。

2600地区中川博司ガバナーは、地区方針として、「多くのクラブが“老化”と“形骸化”を承知しつつも、その殻を破れず、ロータリアンである誇りと自負すら失われつつある・・・という現状を打破するためには前向きなエネルギーと行動力、そして変化を受け入れる寛容な心・・・今こそ、古い殻を脱ぎ捨て、ロータリアンとしての行動を起こす・・・」を掲げています。さらに 2012-13 国際ロータリー会長

田中作次氏は、〈『世界で良いことをしよう』と言うだけでなく、実際に行動で示すことが重要です〉と述べています。

これらのメッセージはいずれも今日のロータリークラブ、ロータリアンが陥っている閉塞状態の打破を訴えるものだと思います。

このアンケート調査及びメッセージを受けて 2014-15 年度2600地区国際奉仕委員会は、方針として、「現状を打破するために実際に行動で示すことこそが今取り組むべき課題だと思っています。クラブが会員の減少や高齢化で一クラブでの活動が困難ならば、地区で、クラブ間協働で、グローバル補助金を使って、国際社会奉仕事業を試み、事例を作ろうと考え、ミンダナオ子供図書館財団活動の支援」を提案します。

百聞は一見にしかず・・・現場に行けば何をすればよいかすぐ分かる。日本で、机を囲んで、いくら議論をしても、答はなかなか出ません!! 思い立ったが吉日、恐れず出かけてその地を見て回ること!! そこにある温もり、受けた生の感性が行動の源!!! なのです。「面白くなってきたぞ!! どこまでやれる!?!? 失敗するかもしれない!!!・・・いいじゃないか!! 悪い事するんじゃない!!! 何か役に立っているはずだ!」おもしろがる心持と勇気こそが大事だと思うのです。

さてミンダナオ子供図書館財団ですが、名称は Mindanao Children Library Foundation と言い、主宰者は日本人・松居友氏で去年下諏訪で講演していただきました。代表者はエイプリル・リン(April-Lin)さん、松居氏夫人です。所在地はフィリピン・ミンダナオ島キダパワン市で、創立は2003年、10年余活動を続けてきています。活動資金規模は約200万円/年で、99%が個人寄付です。

活動内容は、

1. 120人収容のキダパワン宿舎からの通学支援
2. 60人収容の遠隔地の寄宿舎から通学支援。
3. 貧困家庭からの通学及び生活支援(学費・古着・古靴の提供&医療)。470名
4. 読み聞かせ
5. Day Care Center の建設と維持
6. 内戦避難民・自然災害地住民の支援

と多岐にわたっています。

基本的な考え方はゼロに立つ支援で、内戦や貧困により発生した孤児・片親の子・家庭崩壊の子をゼロ地点〈食べることができる〉〈病気を治せる〉〈学校に行ける〉に立たせ、さらにプラス状況まで引き上げることで、人道的支援とはこうしたことだと思っています。

こうした子供たちが生まれてくる原因は、先進国のむき出しの資本主義の弊害と宗教的対立や独立運動、さらに地下資源の争奪戦等の内戦により原住民が僻地へと追いやられていくという現状にあります。この困難状況にあって人道的活動をしているミンダナオ子供図書館の支援を提案した次第です。

活用しようとしているグローバル・ファンドは、ロータリーの6の重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。

補助金プロジェクトのスポンサー(提唱者)は、国際的なパートナーシップを組み、各地の地域社会のニーズに取り組みます。そして支援規模は3万ドル(300万円)~20万ドル(2000万円)まで使うことができます。

補助金の使用条件として、

*活動が実施される国のクラブまたは地区と、それ以外の国のクラブまたは地区がパートナーとなって協力する。

*双方のクラブ/地区は、補助金を申請する前に、参加資格の認定を受けている必要があります。

さらにその他の条件として

★ 持続可能であり、補助金の資金が使い尽くされた後にも活動成果を長期的に持続させるための計画を含んでいること

★ 測定可能な目標を持っていること

★ 6の重点分野のいずれかに該当すること

★ 地域社会のニーズに応えること

★ ロータリアンと地域社会の人々の両方が積極的に参加すること

★ 補助金の「授与と受諾の条件」に記載された要件を順守すること

等があげられます。 また、6の重点分野とは、

- ① 平和と紛争予防/紛争解決
- ② 疾病予防と治療
- ③ 母子の保健
- ④ 水と衛生設備
- ⑤ 基礎教育と識字率向上
- ⑥ 経済開発と地域開発

の6分野です。

まずパートナーとなる現地ロータリークラブを見つけなくてはなりません。去年9月予備調査に現地を訪問した折に、キダパワン市にある3クラブを訪問してまいりました。その中で、フィリピンのロータリークラブとしては極めてしっかりしたクラブであるキダパワン・メトロ・ロータリークラブに狙いを付けて可能性を探るために折衝を始めています。

他方、2600地区では中川次期ガバナーとも相談し、地区内同調クラブでの協働実施となっています。中心になるクラブ、人間が必要で、長崎さんをお願いしました。

グローバル補助金が獲得できるかどうか、2600地区内では未経験の試みで、水先案内人がいるのではなく獲得に自信があるわけではありません。成否はともかく、行けるところまでやってみようと思っています。

ロータリー財団への寄付行為も重要なロータリアンの務めですが、さらに一歩進んで、それを活用して自前の世界社会奉仕活動にまで進められたら、奉仕の相手だけではなく、奉仕をした自分も満たされる真の奉仕を実感することができるのではないかと、ロータリアンであることの喜びを享受できるのではないかと考えています。

皆様のご理解とご協力を切に願うところです。